

今週（12月6日から12月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、週を通して各業態から積極的な資金調達が見られた。無担保コールO/N物は、週初の6日は▲0.08～▲0.015%近辺のレンジを中心に出会いが見られた。その後は、日を追う毎にレートが上昇し続け、10日には、▲0.015～▲0.003%近辺の出会いが中心となった。無担保コールO/N物加重平均レートは、6日は▲0.035%、7日は▲0.028%、8日は▲0.022%、9日は▲0.015%と上昇していった。ターム物は、1～2W物を中心に▲0.04～▲0.001%近辺の水準で引き合いが見られた。日銀当座預金残高は、大きな変動は無く、526兆円前後で推移した。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.085～▲0.045%程度の水準で推移した。週後半にかけてビッドが減少し、水準が切り上がった。

SC個別銘柄では、5年140～149、10年353～364、20年170～178、30年60～72、40年10～14などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、需給軟化が懸念され、売りが先行する展開となった。先週3日の3M物の入札結果が軟調だったことや、短国入札が来週末まで連続で実施されることが懸念された。

7日に実施された短国買入オペは前回と同額(1,000億円)オファーされ、弱い結果となった。

9日に実施された6M物の入札は、弱い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは軟調に推移した。

10日に実施された3M物の入札は、弱い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、10日の発行集中日があり、電気機器・石油・鉄鋼・ノンバンク業態で大型発行が見られた。週間総額は発行超となっており、市場残高は9日には26兆円台に到達した。発行レートについては、日銀の適格担保銘柄は概ねマイナスで決着している。発行頻度の多い銘柄は浅いマイナス圏で推移する一方、稀少銘柄は12月末越えを中心に強いビッドが入っている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/6 (月)	27,927.37	0.035	113.05	△ 0.035	△ 0.084	5,259,800
12/7 (火)	28,455.60	0.050	113.70	△ 0.028	△ 0.084	5,261,100
12/8 (水)	28,860.62	0.045	113.48	△ 0.022	△ 0.084	5,252,800
12/9 (木)	28,725.47	0.045	113.75	△ 0.015	△ 0.081	5,259,100
12/10 (金)	28,437.77	0.050	113.44	△ 0.008	△ 0.054	5,230,900

来週（12月13日から12月17日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
12/13 (月)	12月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50) 10月の機械受注統計(内閣府 8:50)			
12/14 (火)		TB6M 34,500億円 12/16発行	流動性供給 5,000億円 12/15発行	米FOMC(1日目) 11月の米生産者物価指数
12/15 (水)	10月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 12/20発行		米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 10月の米企業在庫 11月の米小売売上高 11月の英消費者物価指数
12/16 (木)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~) 11月の貿易統計(財務省 8:50)	TB3M 43,000億円 12/20発行	20Y 12,000億円 12/17発行	ECB定例理事会(金融政策発表) 英中銀MPC結果発表 11月の米住宅着工件数 11月の米鉱工業生産・設備稼働率
12/17 (金)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30) 10月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)			11月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オベ合計	実質過不足	需給要因
12/13 (月)	▲ 1,100	4,400	3,300	CP買入 国債補充	▲ 200 300		100	3,400	TB3M発行▲43000償還50000
12/14 (火)	▲ 2,000	2,000	0				0	0	源泉税揚げ
12/15 (水)	▲ 2,000	65,000	63,000	貸出増加支援	▲ 28,900		▲ 28,900	34,100	年金定時払い 流動性供給▲5000 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲1900 個人向け3・5Y償還300
12/16 (木)	▲ 3,000	▲ 2,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	TB6M発行▲34500償還33400
12/17 (金)	▲ 3,000	▲ 5,000	▲ 8,000	CP買入		5,000	5,000	▲ 3,000	20Y発行▲12000 交付税借入▲11000期日11000
週間合計	▲ 11,100	64,400	53,300	—	▲ 28,800	5,000	▲ 23,800	29,500	

12/13は日銀予想、12/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、15日の積み最終日の前後でレートが変化することが見込まれる。無担保コールO/N物加重平均レートは、15日までは▲0.01%前後で推移し、16日以降は▲0.05～▲0.03%程度まで低下すると予想する。積みの進捗具合によっては15日より前から低下する可能性も考えられる。なお、16日以降は基準比率が若干増加する（11月期間9.0%→12月期間10.0%）。レポ市場は、GC T/Nは、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、今積み期GC T/N物のレートは▲0.070～▲0.040%程度の水準で推移することが見込まれる。短国市場は、14日に6M物、15日に1Y物、16日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、レポレートが上昇していることもあり、13日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、14日にCP等買入オペが5000億円予定されている。その他、市場発行残高が過去最高（2020年8月27日：26兆826億円）を更新する見通しとなっている。

主要なイベントは、国内では16～17日に金融政策決定会合、海外では14～15日にFOMC、15日に11月の英消費者物価指数、16日にECB定例理事会、英中銀MPC結果発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。